

多摩市教育委員会教育目標

子どもたちが知性、感性、道徳心及び体力をはぐくみ、人間性豊かな市民として成長することを願うとともに、「わたしがつくる我がまち多摩」の意識の醸成を目指し、
 ○互いに人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
 ○市民の一人として、地域社会に貢献しようとする人間
 ○自ら学び、考え、行動する個性と創造力豊かな人間の育成に向けた教育を重視する。

学校教育目標

- 自ら学ぶ力
- 共に生きる心
- 健やかな体
- 品格ある態度

目指す生徒像

自分の考えに自信を持ち、
 他を思いやりながら自己実現できる生徒

学校経営方針上の教科指導

ユネスコスクールとして生徒一人一人の資質・能力の伸長を目指す学習活動を充実させる。

- ① 主体的に考え、対話的に学びを深める授業の工夫と実践に取り組む。そのために、各教科において前期のうちに、授業改善プランを立案する。
- ② あいさつや対話を重視し、授業規律を大切にすること。
- ③ ICTの活用やユニバーサルデザインの授業を進め、生徒が「分かる」を実感できる授業を実践する。
- ④ 朝読書を中心とした読書活動を充実させ、図書館司書と連携を図りながら図書室を有効活用する。
- ⑤ 言語活動の充実を図り、課題解決力、表現力を育成する場を意図的に設け、社会に開かれた教育課程を研究する。
- ⑥ 授業内での評価方法の工夫に努め、十分な評価材料による指導と評価の一体化を図る。評価・評定方法や評価材等については各学期初めに生徒に説明し見通しをもたせる。
- ⑦ 評価観点「主体的に学習に取り組む態度」について理解させ、学習に習慣的に取り組む意欲と姿勢を育てる。
- ⑧ 学習指導員等の外部人材を有効に活用し、放課後、長期休業中、試験一週間前などにおける補習の機会を工夫し、基礎学力の定着を図る。
- ⑨ 生徒による授業アンケートを改善・全クラスで実施し、授業力向上に生かす。
- ⑩ オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツによる心身の調和的な発達を目指す。

教育課程上の教科指導

- ① 新学習指導要領の主旨を理解し、1時間のねらいや、学ぶ道筋等を明確にしながらか主体的・対話的で深い学びのある」授業を展開する。また、授業の最後にねらいに対しての振り返りを位置付け、学習内容の再確認と自らの学習状況を把握させ、主体的に学習に取り組む態度を養い、学力の定着を図る。
- ② 問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れることにより生徒の学習意欲を喚起し、課題を発見し、自ら調べ考え、共に学び合うことを通して主体的・対話的で深い学びを充実させる。
- ③ 地域や大学の外部人材を活用するなどして、放課後や長期休業中の学習教室等を組織的・計画的に実施し、基礎的・基本的な知識や技能の定着・伸長を図る。
- ④ 学校図書館司書及び司書教諭の活用により読書活動を推進し、言語活動の基礎を養う。
- ⑤ 習熟度別少人数指導を効果的に活用し、東京都習熟度別指導ガイドラインを踏まえて、コミュニケーション能力の向上、個に応じた指導の充実を図る。また、数学では、タブレット端末を利用してアプリ版東京ベーシック・ドリル等を活用し、生徒の基礎学力の更なる定着を図る。
- ⑥ 「オリンピック・パラリンピック教育」を推進し、「一校一取組」としての体育授業前の自主的なランニングの時間を設けて、主に持久力を付けさせる。この取組を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、自ら健康を維持・向上する意識を育成する。

本校が目指す「確かな学力」

- 各教科における知識・技能の基礎基本事項の確実な定着
- 自分の考えや意見を持ち、すすんで発表する資質と能力
- 学ぶ意欲や学習に対する関心を持ち、主体的に学ぼうとする態度
- 自分で課題を見付け、自ら学び、判断し、問題解決する資質と能力

【分析】

(今年度の定期テストより)

- 平均点を下回る層が多い傾向がある。基礎・基本が定着していないため、積み上げていくことが難しくなっていると考えられる。
- 問題を正確に読み取ることができず、正解が導き出せない。
- 家庭学習の習慣が定着していない生徒、学習時間を確保していても学習の仕方が身に付いてない生徒が見受けられる。

【改善】

- 基礎・基本の定着をさらに図る。
- 一時間一時間の授業を大切に、毎時ねらいの提示をして、指導内容の展開方法の工夫、振り返りを行う。
- 読む力を身に付けるため、読書活動の継続指導の他に、一定の文章や図表の読み取りから、解決に導く力を養う。
- 家庭学習の充実のために、具体的な学習方法を教え、基礎・基本の定着を図る。
- 個別の学習支援を充実させるために、地域未来塾とも連携して、今後も学習環境の整備と放課後学習や補習授業に力を入れる。
- ICT機器を利用して「東京ベーシック・ドリル」「ミライシード」等に取り組みさせる。

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価活動の工夫	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業等個に応じた指導や教材の工夫 ・明確な目標を意識した上での生徒の興味・関心を高める指導の工夫 ・ユニバーサルデザインを意識した、誰もが分かりやすい授業の実施 ・言語活動の充実 ・課題解決能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・生徒による授業評価の実施とその分析活用 ・体験学習の充実 ・外部人材の活用 ・ピアティーチャーや学習支援員等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のツールとしてのICTの活用を目指す授業研修 ・通常の学級における日常的な特別支援教育の在り方の研修 ・平成28・29年度多摩市研究奨励校「主体的に考え、対話的に学びを深める授業の工夫・改善」の成果の継承と特別の教科「道徳」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の支援となる評価の工夫 ・評価規準及び評価基準の点検や改善 ・評価に関する毎学期最初の説明 ・明確な評価資料の提示 ・授業のねらいに即した評価の充実 ・道徳の評価の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や学校公開週間の充実と啓発 ・学校便りやWebサイト等を活用した情報公開の工夫 ・地域人材や地域の学習教材の更なる活用 ・学校運営協議会による学校評価の実施とその活用